

見性寺けんしやうじ 〔二条川東にあり、浄土宗知恩院ちおんゑんに属す。初は京極下御霊しもごりやうの後にあり、寛永年中こゝにうつす〕本尊阿弥陀ほんぞんあみだ

仏ぶつ〔恵心の作〕本願は主膳正重勝しゆぜんのかみしげかつは織田信長公おだのぶながこうの庶子にして、村井春長軒むらぬしゆんちやうけんに養はる。或時直指人身見性成仏ちきしじんしんけんしやうじやうぶつといふ八字の旗を賜て旗頭となる。天正十年六月二日明智乱の時、織田公并おだこうに春長軒戦死あり、依之此寺を建立して、件の旗を土中に埋て見性寺けんしやうじとなづく。同十六年六月当寺に於て七回忌追善の時、豊臣太閤参詣とよとみたいかふし給ひ、十七石の寺領を寄附せらる。主膳正法名見性軒しゆぜんのかみけんしやうけんの墓当寺はかにあり、其子孫原田村井はらだの両氏日越たり〕

三福寺さんぶくじ 〔二条川東にあり、浄土宗誓願寺に属す。初めは京極二条にあり、開基了観漸空上人れうくわんぜんくう〕

本尊阿弥陀仏ほんぞんあみだぶつ 〔定朝の作、坐像二尺余〕夢見地藏ゆめみのちざう 〔寺内に安置す、定朝の作、立像三尺五寸。後一条院の后上東門院、夢中に生身の地藏尊の元現を蒙り、其御像を作らしめ給ふ尊像なり〕

前大納言為世三福寺にて聴聞の次に歌読侍る時述懐

新千載 名をかけし跡を尋ねてもしほ草又ももらすな和歌の浦浪 示証上人

松原通烏丸東 民家裏・俊成卿社しゆんせいきやうやしろ